那覇の井泉（湧き水）

井泉（セイセン）は、安定した水源を地表水に求めることが困難な沖縄では、人々の生活を維持するために必要不可欠なものでした。そのため、先人は、井泉の周りに集まり集落を形成していきました。
しかし、人口の増加に伴い、水の乏しい地域にも人々は集落を形成するようになりました。
那覇では、昭和の初期までそのような人々のため、井泉から水を集め売り歩く水取り船がみられました。
水道の普及した現在では、このような水取り船は姿を消し、それに代わり那覇市水道局が皆様の生活に欠かせない水を供給しています。そして、かつて人々の生活を支えた井泉は、崇拝の対象として人々に尊ばれています。

沖縄の井泉にはヒージャーとカーの２種類あります。ヒージャー（樋川）とは、水源が遠くにあって、水路で水を引いてきて、樋《トイ》から水だめに水が流れ出る形式のものを指し、カー（井戸）は自然の湧水を利用した井戸のことで、垂直に掘り込んだ所から水が湧き出る形式のことをいいます。



ヒージャー　　カー

那覇市内には約120箇所の井泉があります。その中でも金城町石畳道周辺には文化財に指定されているものがいくつかあるので紹介します。

金城大樋川《カナグスクウフヒージャー》

家庭に水道が引かれる前、村ガー（共同井戸）として使用されていました。毎日ここから水桶《ミズオケ》で各家庭の水がめに運び入れられ地域住民の大切な生活用水となっていました。石積みの表面がすり減り、角が丸くなっているのが特徴です。

寒水川樋川《スンガーヒージャー》

旧寒水川村（現在の寒川町）にある樋川で、半月形に積まれた３段の石垣が美しく感じられます。泉水を溜める池は浅く、あふれた水は下方にある四角の池に溜まるようになっています。



金城町石畳道周辺マップ

（資料提供：那覇市文化財課）

平成15年度水道モニター報告

那覇市水道局では、市内にお住まいの方を対象に毎年15名を水道モニターに委嘱して、様々な活動を行なっています。


一日水道局長による委嘱式の様子



モニター施設見学


会議では、毎回様々な意見を提案していただきました。

今年度の主な活動内容

- ●モニター会議（ご提案、質疑応答など・４回）
- ●モニター施設見学　●モニターアンケート（２回）
- ●水の飲み比べ調査　　など

モニターは、毎年５月初旬頃募集しています。
興味がある方は下記あてまでお問い合わせください。
企画経営課　832－4173